令和７年２月２８日

中標津町議会議長　　後　藤　一　男　　様

中標津町議会議員　　宗　形　一　輝

# 研　修　報　告　書

以下の視察について、次のとおり報告します。

**１　視察名　　文教厚生常任委員会道内視察**
**２　視察先　　帯広市　帯広第一病院**
**３　視察日　　令和７年１月 27 日（月）**
**４　視察事項　ＰＮＳ看護方式について**
**５　成果（具体的に）**

帯広市には公立病院がなく、厚生病院を中心とした救急患者の対応を行っており、帯広第一病院は二次救急輪番病院の一つとして機能しております。

病院理念として質の高い思いやりのある医療サービスを提供し、地域に信頼される病院を目指すことを掲げ、さらに看護部においても患者様の尊厳を大切にし、質の高い看護を提供しますとされています。

ＰＮＳ看護方式（パートナーシップ・ナーシング・システム）は福井大学の論文にて看護雑誌に掲載されていたことから運用の検討をしたとのことでした。帯広第一病院は 2018 年導入当初、看護師の離職率は 30％程と高く離職対策をする必要があったとのことです。主な理由としては仕事が忙しく、新人や中途採用者に仕事を教えてあげる時間が取れないためとのことでした。新人や中途採用者への対応ができれば離職率の低下を期待できます。

ＰＮＳは自己完結型の看護を二人三脚の看護体制にすることで朝の情報収集や指示の確認をすることにより、ペアでの情報共有をすることができます。

メリットとしては新人や中途採用者は仕事が早く覚えることができる、昼休憩を交代で取ることにより、当初の目的のとおり離職率が下がりました。デメリットとしては全体的に時間がかかるとのことです。

帯広第一病院はさらに工夫されており、残業させないことを目標に看護師チームを午後２時に全員集合させて残っている仕事量を確認し、仕事の再分配を行い、全体で均等を図るように努めています。また、早い時間に出社し、仕事の確認をさせないよう、午前８

時15分より前にはステーションに入らないようにするなどの仕事改革が行われています。

しかしながら、国の診療報酬改定が行われ、患者７人に対し１看護師だったのが10対１となってしまったため、ＰＮＳ体制が崩れてしまい、看護師１人当たりの仕事量が増加したため、現在は離職数が増えてしまったとのことでした。

それでも看護師確保をしなければならないので、取り組みとしてはＳＮＳでの発信や看護師を目指したい方へのシミュレーション研修を積極的に行っているとのことです。

どこの病院も人材の確保が大変で、年収の高い病院や派遣に流れてしまっていますが、帯広第一病院のような私立病院に比べ当町の公立病院は退職金がとても高いので募集の際にはアピールポイントになるとのアドバイスもいただきました。

ＰＮＳの様子

## ４　視察事項　　帯広市教育委員会　ひろびろチョイス

## ５　成果（具体的に）

帯広市教育支援センターひろびろチョイスは、昨年よりオンラインを活用した学習支援や体験活動を通して多様な学びの機会を確保し、学校復帰や社会的自立につなげていくことを目的に運用が開始されました。

帯広市は380人程の不登校生がおり、将来の引きこもりの可能性をなくすため、Choice(選べる)、Connect(つながる)、Cheer（応援する）をコンセプトに令和５年139名の児童が登録されております。

また、学校との確認において、学びの機会を確保ということで、このバーチャル空間のひろびろチョイスに入室することで出席扱になったり、学習の評価がしっかりと担保されています。

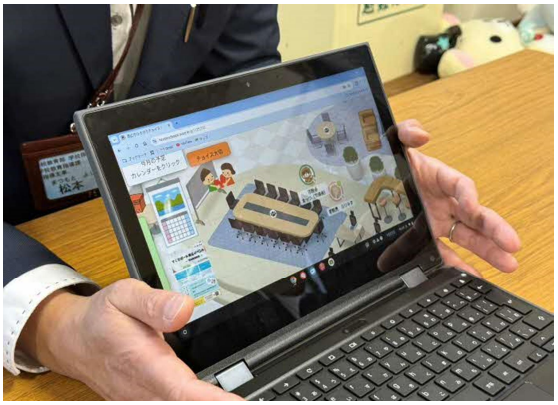
10時から14時15分までの時間割で、入室から退室までいろいろ学ぶことができます。一人でじっくり学ぶスペース、電子図書館（２万６千冊)、参加者同士でつながって学ぶスペース、鍵がかかる相談スペースなど自由に活動ができます。ここでの目標の一つで学校復帰があるので多様なつながりや遠足活動なども企画されています。

文部科学省のＧＩＧＡスクール構想のアンケート調査の結果を見てみると、教える先生方がタブレットで教えることに慣れていないため、しっかりとした学習の対応ができていないのが現状です。ここの教育支援センターの生徒指導主事の先生は、元校長先生で、

こういったシステムが得意な先生ではないと伺いました。担当の先生が対応できるようにシステムを活用し、子どもたちの管理ができるところまで学んだそうです。

子どもたちは市から配布されたタブレットからこのシステムを活用することができます。

当町はまだ、子どもたちが自宅にタブレットを持ち帰っていないことから、もっと広い考え方でこのＧＩＧＡスクール構想の考え方を推進していかなければ、学んだことを社会に出て活用するまではいかないと思いました。



ひろびろチョイスの説明

**２　視察先　　美幌町役場**
**３　視察日　　令和７年１月 28 日（火）**
**４　視察事項　申込バス「もーびー」**
**５　成果（具体的に）**

農村地区は乗合タクシー事業を平成 24 年より運行開始、市街地は申込バスもーびーを令和４年から運行開始しています。

令和４年の美幌町地域公共交通計画の策定に向け、将来に向け持続可能な公共交通システムの構築を目指すことを基本方針とし、デマンドバスの導入に向けて取り組みました。

美幌町議会議事堂

地域課題としては日中の乗車数が少ない、交通空白地がある等があり、10 時から 15 時に運行、路線バスが運行していない地区にデマンドバスを運行することを盛り込みました。

従来のバス停 79 か所、もーびー専用バス停 25 か所からもーびーを申し込み、乗ることができます。半径 200ｍに１か所設定し、町民が使いやすいように配置されております。バスを使う方は、乗車の直前に申し込みし、申し込みがあったバス停から最短ルートで行きたい場所の最寄りのバス停まで送迎してくれます。料金は１回 300 円となっております。

制度導入後の改善点として町民の意見から、お墓参りに行きたい、キャンプ場に行きた

い等の意見からバス停の増設も行いました。また、乗合率を上げていきたいとのことでしたが、通過点において他の申込者を拾うことはあるのかとの問いに、１台の乗車数は２から３人の時もあるが、同じ場所から乗って同じ目的地まで行くパターンが多いとのことでした。これから細かい足の確保として、老人クラブの活動やクーリングシェルター等に活用できればとのことでした。

当町においても近くにバス停がないところもあるので、申し込みする形のデマンドバスは町民の使いやすいものになるのではないかと思いました。

**２　視察先　　網走市**
**３　視察日　　令和７年１月 29 日（水）**
**４　視察事項　網走市立郷土博物館・モヨロ貝塚館**
**５　成果（具体的に）**

○網走市立郷土博物館

網走市立郷土博物館は昭和 11 年に当時北見郷土館として建築し開館しました。築 89 年と北海道最古の博物館として、考古学の研究をしていた米村喜男衛が長年収集した考古、民俗資料が基礎となりました。

建物は時代は感じられますが、綺麗な展示物が見やすい配置となっています。

**郷土博物館**

１階は網走周辺で見られる魚介類、海洋生物の展示や山の動物・昆虫に至るまで展示されており、２階は縄文時代のものやオホーツク文化と特有の文化を見ることができます。網走市に予算をつけてもらい、少しづつ展示物を増やしていきましたと説明を受けました。

○モヨロ貝塚館

モヨロ貝塚館は網走市立郷土博物館の名誉館長米村喜男衛が発掘していた現場で、オホーツク文化の生活を展示した施設となっております。当時の貝塚が展示されていたり、1300 年前に住んでいた原住民の海獣を狩猟する道具・居住建物・埋葬お墓等が数多く展示されております。

当町は現在、郷土資料の収蔵庫は建築中ですが、郷土館については具体的に建て替える動きはありません。

しかし、モヨロ貝塚館では隣に遺跡が広がっていることから、本町も同様に収蔵庫の

隣に発掘現場が現存しているので、一般の方が体験できるような仕組みがあれば勉強になると感じました。

モヨロ貝塚館